

## ネコはいつから飼われているピヨ？



このまえ、ネコに追いかけて死めかと思ったピヨ…  
世間では、空前のネコブームらしいけど、  
ネコはいつから人間に飼われるようになったピヨ？



たまごちゃん



があこ先生

家畜化されたネコ(イエネコ)は、穀物や経典などをネズミから守るために、古代に中国大陸から輸入されたと考えられ、その後、ペットとして定着していきました。実は、福岡市内の発掘調査では、約800年前のネコの骨が見つっているんですよ。

日本最古のイエネコの骨は、長崎県壱岐島のカラカミ遺跡から発見された弥生時代後期頃(約2,000年前)のもので、この時期からネコが人間とともに生活していた可能性があります。また、平安時代には、宮中や貴族がネコを飼っていたという記録があり、絵巻物にも、家の中で丸くなって眠るネコの姿が、描かれています。鎌倉時代以降、次第に、庶民のあいだでも飼育されるようになりました。



ネコの骨の出土状況  
(博多遺跡群第243次調査SK127)

一方、福岡市の博多遺跡群第243次調査(博多区店屋町)では、骨格が完全に揃ったネコの遺体が見つかりました。骨の位置が全く乱れていなかったことから、埋葬されたものと考えられます。この骨は、平安時代の終わり頃から鎌倉時代前期頃の穴から見つかり、この時期のネコの骨が、しかも埋葬された状態で見つかるのはとても珍しいことです。なお、動物骨に詳しい名古屋大学にいみみちこの新見倫子先生の鑑定によると、生後1歳未満の子猫だったようです。



ネコの足型がついた江戸時代の皿  
博多遺跡群では、こんなお皿も見つかっています。詳細は「歴史の風 Vol.26」をご覧ください。

はかた～のねこ～よ～♪



この当時の博多は、国内有数の貿易都市として栄え、多くの物や人が行き交い、国内外の商人たちが生活していました。このネコは、どんな家に住み、どんな人に飼われていたんでしょうね。

<参考文献> 木下博文編2022『博多189 博多遺跡群第243次調査報告』福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第1456集  
→奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」内<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/122582>  
福岡市文化財活用部「歴史の風～ふくおか文化財だより～」Vol.26 2020年4月号